



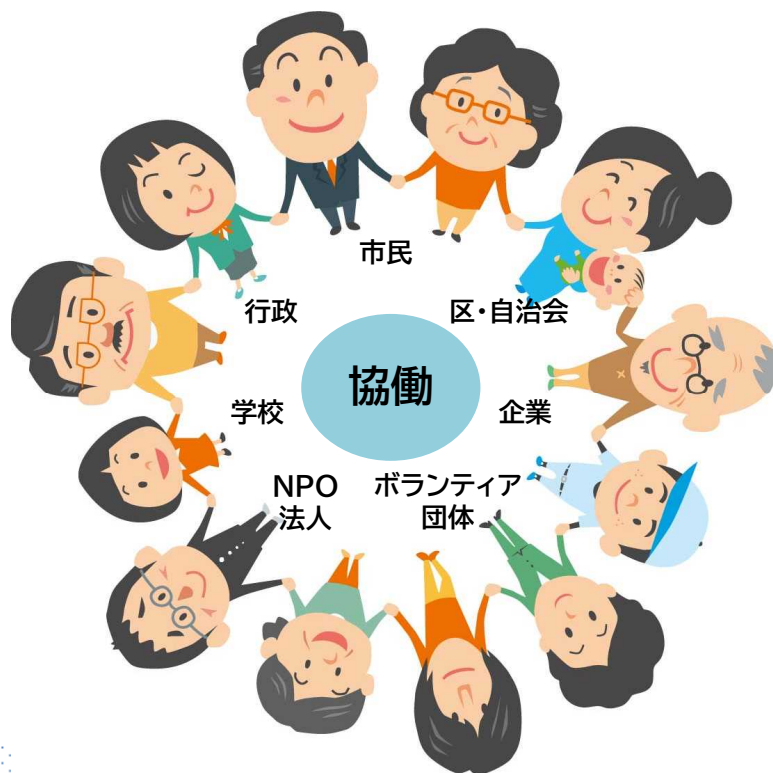
これからの協働のまちづくり～ コロナ禍を越えて～

新型コロナウイルス感染症の区分が5類に変更となり、世の中は脱コロナの方向に進んでいます。しかし、昨年までコロナ禍が社会に及ぼした影響は想定を超える甚大なものでした。特に子ども食堂、中高生の居場所、高齢者の居場所など、社会的弱者への支援を続けてきた活動は、その多くが休止か縮小に追い込まれました。日常生活は巣ごもり状態となり、市民交流の機会は奪われ、恒例の八街大祭、自治会の盆踊りなどの市民活動も中止を余儀なくされました。コロナ禍によって、子どもたち、若者、高齢者など私たちは人とのつながりが希薄となり孤立化が進んでいます。幸い、市民生活は少しずつ活気を取り戻し、自治会やNPOなどの地域活動、子ども食堂、フードパントリー、環境保全などの身近な活動も再開しています。

「困っている人の役に立ちたいけど、どうすればいいかわからない」、「リタイアしたので何かできることはないか」、「仕事以外の時間を使って、地域と関わりたい」などという声を聞きます。あなたもぜひ気軽に地域活動に参加してみましょう。

地域社会を構成する大切な一員である市民、市民活動団体、区・自治会、事業者、行政などが連携、協力しながら、豊かで活気あるコミュニティを目指す活動、これが「協働のまちづくり」です。この活動に参加する市民の輪が広がることで、協働による持続可能な八街市へと変わっていきます。

私たちPiTは、「つなぐ、ささえる、まなびあう」などの活動を通して、市民がまちづくりに参加できる環境をつくっていきます。



こどもは社会全体で支えよう！ —こどもまんなか—



自然環境を守る＝ 子どもたちの将来を守る



令和5年4月、内閣府の中にこども家庭庁が設けられました。『こどもまんなか』をスローガンに、子どもが自分らしく幸せに暮らせるように、社会全体で支えることを目指しています。

さらに子どもや若者への取り組みを進めていく上で、基本になることを定めた『こども基本法』も施行されました。

そのような中、市内では、八街市社会福祉協議会が管理運営する「八街市児童館～ひまわりの家～」において隔月で、「～「食」でつながる八街こどもプロジェクト～『みらい』」が開催され、子ども食堂やフードパントリー活動を行っているNPO法人や任意団体、飲食店などが集まり、情報や提供食品の共有、今後の取組みについて議論を重ねています。

私たちを取り巻く自然環境は、地球温暖化や大気汚染・水質汚染・森林破壊などにより変化してきています。環境の変化は私たちの生活だけでなく、地球上の生物にも影響を与えています。

八街市でもそんな自然環境を守るために楽しみながら長年活動されている団体があります。

私たちは社会の一員として何ができるのでしょうか？

今回は市内で活動する多くの団体から、3団体をご紹介します。活動内容を読んでいただき、ご支援、ご協力、ご参加をお願いします！

「子ども食堂」

- 子どもが一人でも行ける無料または低額の食堂です。民間の自主的・自発的な取り組みで、その数は増加しており、全国で約7,000箇所あります(全国こども食堂支援センター・むすびえ／2023年2月発表)。
- 月1回開催のところから365日3食を提供しているところまで、数人を対象としているところから毎回数百人が集まるところまで多様です。目的も、おなかをすかせた子どもへの食事提供から、孤食の解消、栄養があり美味しい食材による食育、地域交流の場づくりと、さまざまです。

「フードパントリー」

生活困窮世帯など、様々な理由で日々の食品や日用品の入手が困難な方たちに、企業や団体などからの提供を受け、身近な地域で無料で配布する活動または場所。

コミュニティ活動 (子供の会、満腹食堂)

smile peace 子供育成会(任意団体)

連絡先

代表 大塩さん 山田台
080-8811-3629

「満腹食堂」
活動日：月1回(第3日曜日)
活動場所：自宅、集会所など

子どもたちのために何かをしたい

大塩さんが小学校のPTA会長をされた時、いろいろな学校行事が無くなったことから、賛同する方たちと「子供の会」を立ち上げて活動を始めました。また、子どもたちだけでなく、地域の方たちも一緒に活動してもらうことで、子どもたちを守る防犯の目が増え、地域ぐるみで子育てすることが目的です。

年齢関係なく、地域の方も一緒に交流

子ども食堂は子どものみが対象というイメージがありますが、目指しているのは「食卓を皆で囲むことの大切さ」です。ご自身の小さい時の「食事はひとりだとつらい」体験が活動の背景にあります。食卓の大切さを伝えるのはなかなか難しく、近所の方との交流も少ないため、あえて『子供食堂』の名前は付けず、「満腹食堂」としています。

また、お手伝い頂ける方には「やらなきゃではなく、楽しいからやりたい」を大切に参加していただいています。

たまにはリフレッシュ

夏祭りや大人の部活動(バレーボール、プラモデルなど)にも取り組んでいます。特に部活動は、子育て世代の息抜きの場として、お子さんを「子供の会」で預かり、子育てをたまにはお休みしてリフレッシュしてもらう取り組みです。もちろんお子さんも部活動に加入できます。

子育ては気兼ねなく

育児、子育てを周囲の目を気にしないでできる戸建てを貸し出す計画を進めています。「住む所が決まらなると何も始められない」という考えから、気兼ねなく子育てをしてもらえる場所を提供したいと考えています。



満腹食堂で用意された「ライス・パフェ」
子どもたちが自由にトッピング



環境保護活動(里山への想い)

東吉田みずすましの会(任意団体)

顔を合わせる事が活力

東吉田を中心に環境ボランティアをおこなっている団体が「東吉田みずすましの会」です。活動の内容を新村さんに聴きました。

八街市の環境は鹿島川、高崎川、作田川にそそぐ支流の水源になっています。活動場所は鹿島川・作田川水系の分水嶺の近くです。自然豊かな「桜の広場」の環境整備や花植え、メダカの放流、竹炭づくりなどをおこなっています。

活動取材をした日は天気の良い暑い日でした。桜の広場の環境整備を、会のメンバーは手際よく作業をしています。休憩時間では近況などを話し笑い声がたえません。顔を合わせて一緒に活動することがメンバーの活力になっています。

稲作が盛んだった頃、種もみを浸していた池を活用してメダカと水草を育てています。

また、竹炭づくりを、谷津田を見下ろせる雑木林と竹林に囲まれた里山の一角でおこなっています。竹を切ることで竹林の荒廃を防ぐのが目的です。

活動を通して子ども達に記憶として心に残り、大人になった時に自然に触れ思い出し、次世代につながる活動のきっかけになってくれたらと「活動の想い」を語ってくれました。

連絡先

事務局長 新村(しんむら)さん

東吉田

活動日: 毎月第3土曜日 9時~12時

活動場所: 東吉田 桜の広場ほか

090-3067-8934

自然豊かな里山を守る

立ち上げのきっかけとなった、耕作をやめて荒れゆく田んぼが増えるのを目にした時、「みんなの興味の持てる場所づくりを、やれる人がやろうじゃないか!」と声をあげて賛同してくれたメンバーとは、今年10年を迎えます。

しかし、年齢を重ねて、体力のいる作業は時間もかかるようになり、安全面にも一層気を付けて作業しているのが現状です。

担い手を育成し、この「自然豊かな里山」を守り、新しい取り組みを若い世代と一緒に楽しみながら活動を続けていきたいと望んでいます。



メダカと水草が育つ池

草刈り作業
(桜の広場)



フードパントリー

NPO法人ハーベストミュージックジャパン

企業の強みを活かし広がる活動

理事長の末松さんは28歳で八街市に大型リサイクルデパート・ボーン・アゲインを立ち上げました。職業柄2トン車や倉庫を保持しているため、東日本大震災時に友人から支援物資の運搬用のトラックと運転を依頼されたそうです。現地に水やインスタント味噌汁を運び手渡したとき、泣きながら喜んでくれた被災者の姿に人間として本当のふれあいができたことを実感されました。

その後、すぐに動けるNPO法人を立ち上げ災害支援や地域活動の土台作りを始めました。

2019年の台風15号の時には八街市内で物資の受け入れ先となり、区長さんや団体に声掛けして物資を配布しました。

「子ども食堂」から「フードパントリー」へ

事務局長の下川さんは、2019年に倉庫の2階にキッチンを作り「子ども食堂」を始めました。月に1回、子育て中の3人の社員さんに声掛けし、食事作りの手伝いと口コミで広げることに協力してもらい、12回開催しました。最終的には60食を提供。

コロナ禍で「子ども食堂」の開催ができなくなり、2020年からはフードパントリー活動に取り組んでいます。

連絡先

事務局長 下川さん 八街ほ

043-308-8950

harvest.m.japan@gmail.com

活動日: 毎月最終金曜日

活動場所: ボーン・アゲイン
メンテナンスセンター

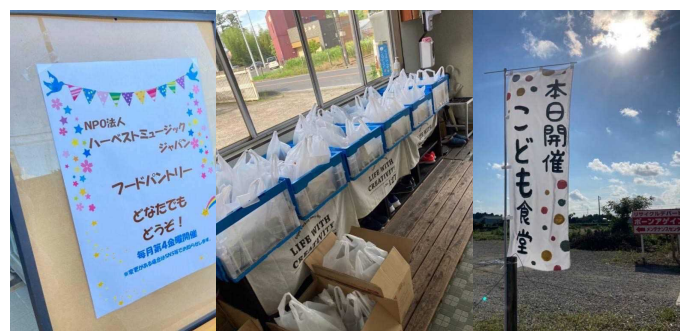
資金はミュージシャンでもある末松さんのゴスペルミュージックコンサート活動時の募金等を当て、さらに協力団体から食品の提供を受けています。

パントリー開催の2-3日前には5人のボランティアさんが80個の袋詰めをし、当日は事務所の玄関で配布しています。お手伝いいただけるボランティアさんを募集しています。

今後は、DVシェルター、不登校児童・生徒の居場所づくり、子どもから高齢者まで集えるカフェなどの立ち上げも視野に入れ、活動を続けていきたいそうです。

〈協力団体〉

- 生活協同組合コープみらい千葉県本部(お米)
- 株式会社 カスミ 八街朝日店(食品)
- 社会福祉法人初穂会 稲毛こひつじ園 フードバンク事業(食品)
- 近隣農家生産者さん(野菜)
- 子ども食堂支援者(お菓子)



第1回 八街のいいね！を語ろう会

開催日時	10月21日(土曜日)午前10時～12時 (受付:午前9時30分から)
会場	八街市中央公民館 大会議室
対象	まちづくりに関心のある市民(八街市在住以外の方も参加できます) 区長、ボランティア団体やNPOで活動されている方
主催	八街市市民協働推進課 協働のまちづくりPiT
参加申し込み	協働のまちづくりPiTに電話で申し込みください。 申し込み締め切りは、10月13日(金曜日)午後4時です。 参加費用は無料です。 ※PiTの連絡先(月曜日～金曜日/祝日を除く 9時～17時): 043-312-2012
会の内容	<ul style="list-style-type: none"> 八街市で頑張っている自治会や団体の活動事例が紹介されます。今後の活動に役立つヒントやアイデアを学んでいただくのが、この会の趣旨です。 例えば、盆踊りに代わる地域行事/高齢者サロン/中学生の居場所/高齢者の生活を支える「見まもり隊」/自主防災活動など 活動事例の報告の後には、情報交換や交流を通じて、「八街のいいね」を話し合ってください。また、本会で知り合えた方たちと新しいネットワークをつくります。

活動場所をつなぎます

ー 活動場所の紹介 ー つなぎます！

協働のまちづくりPiTでは、企業の広場・ログハウスなどの建物・個人所有の広い土地など市民活動に利用して欲しい、または利用したいが何をしたら良いか？などのお問合せがあります。市民活動をしたいけれど場所が無いなどでお困りの方は是非PiTをお訪ねください。お待ちしております。

例えば、こんな活動場所



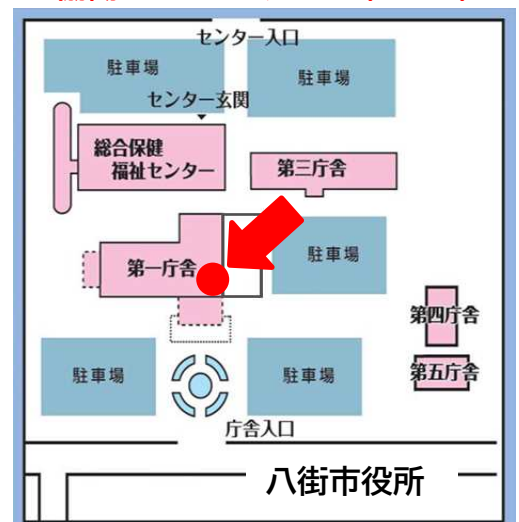
場所・もの・ひと ー ご相談ください

- こんな場所があるが市民活動に使えないか？
- こんなものがあるが市民活動に使えないか？
- 活動団体を紹介してほしい、などなど

PiTを訪れた人たち(延べ人数/件数)

	総数	訪問者数/件数		内訳			
		訪問	電話	一般	団体 法人	行政 関係	その他
6月	31	28	3	13	2	14	2
7月	26	25	1	14	3	9	0

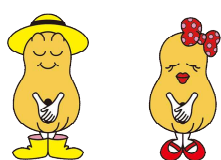
協働のまちづくりPiT(ピット)



開場時間: 月曜日～金曜日 9時～17時

〒289-1192 八街市八街ほ35番地29
市民協働推進課 協働のまちづくりPiT(第1庁舎1階)
043-312-2012 kyodo-team@city.yachimata.lg.jp

発行: 八街市市民協働推進課 2023年9月



八街市イメージキャラクター
ピーちゃん ナツちゃん

八街市
市民協働推進課
ホームページ



協働のまちづくり
PiT
メールアドレス

